

～秋の訪れ～

国営飛鳥歴史公園を彩る秋の植物



2023年9月9日 撮影 高松塚周辺地区

平素より国営飛鳥歴史公園の運営にご理解、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

明日香村では、ヒガンバナがつぎつぎと開花し、田園を赤く、美しく染め始める季節となりました。9月23日(土)、24日(日)は明日香村稲淵を中心に「明日香の秋 令和5年彼岸花祭り」が開催されます。

公園内でも、キトラ古墳周辺地区や、高松塚周辺地区でヒガンバナをお楽しみいただけます。また、キトラ古墳の田んぼでは、6月の田植えを行った古代稲「神丹穂」が赤みを帯び、風に揺られています。

石舞台古墳地区では、ススキの穂が開きはじめ、秋の訪れを感じられます。ススキは万葉の頃より「尾花(おばな)」「かや」という名称で親しまれてきた秋の七草です。

秋の公園を楽しむ話題として多くの方へ紹介したく、ご多忙中のことと存じますが、皆様には是非取材ならびに記事掲載のほど、よろしく願いいたします。

【国営飛鳥歴史公園の秋】



❁ ヒガンバナ（彼岸花）（高松塚周辺地区、キトラ古墳周辺地区）

万葉集ではただ一首、「老師（いちし）」という名称で登場します。

「道の辺の いちしの花の いちしろく

人皆知りぬ 我が恋妻は」 作者未詳（巻11 2480）

「道端の老師の花のようにはっきりと世間の人知ってしまった

私の恋しい妻の

こと」を。



❁ ススキの穂（石舞台地区、高松塚周辺地区）

秋の七草のススキは、万葉集にある山上憶良の短歌からきています。

「秋の野に咲きたる花を指折り（およびをり）

かき数ふれば七種（ななくさ）の花」（巻8 1537）

「萩の花尾花葛花（くずはな）なでしこの花

おみなえしまた藤袴（ふじばかま）朝顔の花」（巻8 1538）



❁ 古代稲「神丹穂」（キトラ古墳周辺地区）

公園内の「キトラの田んぼ」に植えた「神丹穂（かんにほ）」

という古代稲の稲穂が赤く実る田んぼ。



甘樫丘地区のホウキギ（コキア）も赤く色づき始めました！